本部だより

●第40号

マーシャル方面遺族会
http://mibfa1926.com
携帯サイト
●発行日：令和元年8月1日　●発行人：髙林芳夫
●本部：181-0012　東京都三鷹市上連雀8-7-8
●電話＆FAX：0422-77-8557　●編集人：鈴木千春

慰霊祭当日、朝の靖国神社

平成31年度 慰霊祭、総会報告

髙林芳夫

雲ひとつない晴天に恵まれた4月7日、56回目の慰霊祭を迎えました。

桜は3日前が満開でしたが、今日も見頃でした。北は青森から、南は沖縄まで83名の皆様がお参り下さいました。

10時に式典が始まり、拝殿にて国歌斉唱・お祓いを受けて一同ご本殿へと進み、着席。神職による山の幸・海の幸・お神酒の奉奠と続き、次に神職による独特な節回しの祝詞奏上が奉ぜられました。次に名誉会長朝香誠彦様による祭文が読み上げられました。

玉串奉奠、代表者・朝香誠彦・大給乗龍・安細和彦・竹之下和雄・高林芳夫・鈴木千春・大串直行・居戸和由貴の8名による玉串奉奠に合せ、全員で二礼二拍手一礼の作法にて拝礼。厳粛なる慰霊祭は滞りなく終了いたしました。

平成最後の慰霊祭となります。5月には令和元年を迎え新しい歴史が始まります。当遺族会も昭和・平成・令和と56年

の歴史を歩んでまいりました。会の設立時の初心を忘れず、英霊の慰霊顕彰を次世代に引き継いでもらえますよう頑張りましょう。

髙林会長と山口副会長

平成31年度 定期総会

山口良二

日時　平成31年4月7日
午前　11時から11時半
会場　靖国神社参集殿　楠の間

昇殿参拝後に、集合写真の撮影を終え総会がはじまりました。

議事は以下の通りでした。

1. 開会の辞
司会の清水副会長により開会の挨拶のあと、山口副会長を議長に指名。山口議長が開会を宣言。

2. 髙林会長より挨拶、及び会務報告があり、続いて朝香名誉会長、大給相談役、安細篤志会員、ゲストである日本戦没者遺骨収集推進協会の竹之下専務理事・事務局長よりそれぞれ御挨拶をいただいた。

3. 米林副会長より会計報告があった。詳細は添付参照。

4. 吉田監事が欠席のため、髙林会長より会計監査報告があった。
「3月18日に会計帳簿等を監査し、適正に処理され、問題なし」と報告された。

5. 髙林会長より平成31年度の行事予定について説明があった。

6. 役員の改選、新会長の選出。
議長より現体制の留任の提案があり、総会出席の方々に承認を求めたところ、満場一致をもって承認された。

●新役員は次の通り（敬称略）

名誉会長	朝香誠彦
相談役	大給乗龍
相談役	井上賀雄
会　長	髙林芳夫
副会長	米林義昭
副会長	山口良二
副会長	清水雅尚
幹　事	山村一郎
幹　事	佐藤　勉
幹　事	岡村勝利
幹　事	鈴木千春
幹　事	小室洋子
幹　事	石澤洋子
幹　事	佐藤知子
事務局	米林美智子
監　事	吉田正明
篤志会員	安細和彦

※中村順子氏と内海淑子氏は、健康上の理由で退任されました。

7. 国内慰霊行事について髙林会長より説明があった。

8. 現地慰霊報告
平成31年3月9日から17日に日本遺族

会主催で遺児による現地慰霊が実施され、本会から雛形明美氏、中村紘氏の2名が参加、中村氏よりその報告があった。

9. ウォッゼ島での遺骨収集報告

本部だより39号に、詳しい調査記事が掲載されているが、現地での遺骨収集が2月20日から3月7日まで行われ、当会の鈴木千春氏、岡村勝利氏の両幹事が派遣された。鈴木幹事よりプロジェクターを使って遺骨収容の報告があった。

朝香名誉会長と大給相談役

竹之下様

安細様

10. 議長より閉会が宣言され、定期総会は終了した。

中村様の慰霊巡拝報告

直会（食事会）報告

髙林芳夫

4月7日晴天のもと、桜吹雪が舞い散る中、会員の皆様が全国から靖国神社に集まり、慰霊祭、総会も無事に終了いたしました。

今年度の直会は、食事会です、近くのホテルに移動して、会席料理を楽しみながら会員相互の親睦会でした。参加者は35名でした。

清水雅尚副会長の司会で始まりました。乾杯の音頭は、日本戦没者遺骨収集推進協会専務理事の竹之下和雄様にお願いしました。竹之下様は2月20日から3月7日まで、ウオッゼ島での遺骨収集派遣団の団長を務められ、48柱の御遺骨を祖国日本に迎えるという大任を果たされました。当会から岡村勝利・鈴木千春の2名が派遣団として参加しました。3月7日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて遺骨の引渡式があり、当会から12名の代表が御遺骨を迎えました。

さて、直会は美味しい料理を頂きながら互いの近況報告や昔の苦労話等で盛り

上がりました。愛媛県の山村一郎様からは父親が戦地から送ってくれたミレー島での写真や、手紙の紹介がございました。群馬県の坂口春海様からはギルバート諸島での玉砕の詳しい資料のご説明がありました。

来年2020年には2回目の東京オリンピックが開かれます。

昭和39年、アジア初の東京オリンピックについて沖縄県の宮城勇様から大変貴重なる体験談を伺いました。

オリンピック発祥の地、ギリシャのオリンピアで採火された聖火が最初に日本に運ばれたのが沖縄県でした。その聖火が沖縄県を振り出しに日本各地を回って東京の国立競技場の聖火台に点火されました。大成功に終わった初の東京オリンピックの聖火ランナー第一走者が宮城勇さんだったのです。

（詳細は6ページをご覧下さい）

靖国に眠る父上や仲間の英霊も、子孫の活躍をきっと誇りに思っている事でしょう。私達も感動と勇気と希望を頂きました。ありがとうございました。

互いに話は尽きませんでしたが、予定時間をオーバーしましたので、名残を惜しみつつ閉会となりました。

ご参加の皆様ありがとうございました。来年の慰霊祭も元気でお会いしましょう。

直会の乾杯の音頭　竹之下様

山村様

慰霊祭出席者（敬称略・順不同）

名誉会長　朝香誠彦　朝香貴子　**相談役**　大給乗龍　大給三枝子　**篤志会員**　安細和彦　安細菊乃　**青森県**　須藤明子　宮城県　安藤としえ　佐藤　勉　**山形県**　長岡正昭　長岡昭子　**石川県**　河崎仁衛　**山梨県**　吉原太郎　**東京都**　内海淑子　山口良二　山口陽子　鈴木千春　米林義昭　米林美智子　居戸和由貴　佐々木遥　沖本亜由子　沖本健一　星野綾子　大串直行　千田啓子　保延　務　松尾正輝　間々田征史　間々田邦子　山中裕子　山中英樹　**埼玉県**　小室洋子　佐藤知子　齊藤玲子　齊藤百香　齊藤好香　齊藤幸生　長屋綾子　長屋ゆり子　長屋裕太　長屋政喜　髙林芳夫　髙林正子　大井和子　小松順子　鈴木裕子　植田和明　波頭友子　小野トキ子　天野好子　松崎高明　松崎雅子　眞鍋信一　小田原利子　小田原真由美　小田原由樹　小田原豊　小田原明瑠　**千葉県**　雛形明美　中村　紘　**神奈川県**　石澤洋子　清水雅尚　鈴木友季子　服部政久　安威和子　池田　浩　池田尉子　真砂敦大　真砂史大　**愛媛県**　山村一郎　渡部　守　渡部幸典　渡部一力　渡部俊哉　**香川県**　金森越哉　金森佳子　**福岡県**　平田郁子　石松順子　**沖縄県**　宮城　勇　宮城邦子　**ゲスト**　竹之下和雄　坂口春海

寄付者　ご芳名（敬称略・順不同）

※印は一万円以上の方

青森県　須藤明子　**岩手県**　小山浩二　**秋田県**　打矢和子　**宮城県**　安藤としえ　佐藤　勉　**福島県**　酒井則夫　古市キノ　※富田キミ　**新潟県**　山田昭雄　本保美恵子　茨城県　北条　晃　**栃木県**　菊地彦亘　岡村勝利　**千葉県**　相川孝夫　腰川妙子　泉水堯恵　廣原　貫　**埼玉県**　天野好子　小野博孝　小室洋子　佐藤知子　鈴木裕子　橋本　強　※諸橋恒一　※髙林芳夫　齊藤玲子　長屋綾子　植田和明　**東京都**　※番場信子　鈴木千春　西田寿子　山口良二　※朝香誠彦　※大給乗龍　※安細和彦　※竹之下和雄　内海淑子　髙坂和靖　※福永弥生　山田二美　大串直行　中村順子　千田啓子　保延　務　米林義昭　居戸和由貴　神奈川県　石澤洋子　上田文子　糀谷友孝　鈴木友季子　岡野智津子　**山梨県**　黒川正文　**長野県**　油井芳枝　**石川県**　※木村久子　河崎仁衛　**富山県**　廣島富子　**高知県**　西岡純一　橋本勝彦　藤田洋子　**香川県**　石川正興　**福岡県**　平田郁子　**沖縄県**　宮城　勇

62名、合計356、500円

ご寄付をいただき、心より感謝を申し上げます。

●会費についてのお願い

会員一五六名中、会費納入者は一一八名でした。（四月十五日現在）

未納者三十八名となっております。

会員数の減少もあり、当会の会計は決して豊かではありません。会費の振込みを忘れていらっしゃる方はお早めにお振込みをお願い致します。当会は、すべて皆様からの会費で運営しております。何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

会員の島別比率

全会員数　4月15日現在　156名

クェゼリン島	84名	53・8％
ルオット島	20名	12・8％
ウオッゼ島	13名	8・3％
ブラウン環礁	11名	7・0％
マロエラップ島	5名	3・2％
ミレー島	3名	1・9％
ヤルート島	3名	1・9％
タラワ島	3名	1・9％
ナウル	1名	0・6％
ポナペ島	1名	0・6％
その他	12名	7・7％
合計	156名	99・77％

千鳥ヶ淵戦没者墓苑拝礼式　髙林芳夫

令和元年5月27日、千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて拝礼式が挙行されました。

令和の時代にふさわしく皇族のご臨席は若い眞子親王殿下をお迎えして拝礼式は始まりました。参列者全員で黙祷、国歌斉唱、厚生労働大臣の式辞、同大臣による納骨。次に眞子内親王殿下が御拝礼になり、参列者一同が同時に拝礼を行いました。この後、内閣総理大臣、遺族代表、関係国駐日大使、衆議院厚生労働委員長、参議院厚生労働委員長、外務大臣、環境大臣、防衛大臣、各政党代表、各関係団体代表、最後に厚生労働大臣が花を献じて、式典は滞りなく終了しました。

本日は925柱が納骨され、既に納骨された御遺骨と合わせると37万69柱となります。

ウオッゼ島からの48柱は、来年度の拝礼式にて納骨される予定です。

当会からの参列者は、米林美智子、星野綾子、佐藤知子、髙林芳夫の4名でした。

1964東京オリンピックを想い、2020オリンピックに願う

沖縄県　宮城　勇

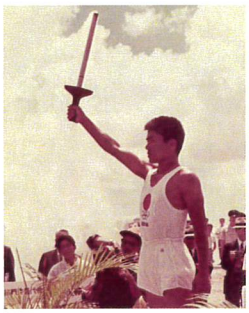
6月、東京オリンピック開会式まで「あと400日！」の報道がありました。メイン競技場の建設も着々と進み、今年11月には完成予定とのこと。開幕へのカウントダウンがいよいよ音高く響いてきました。

64年当時「世紀の祭典」と謳われ、百年に一度のチャンスと言われたオリンピックが、56年の時を経て再び東京神宮の杜を中心に繰り広げられます。嬉しい限りです。

1964年。思えば終戦から19年、日本中がいわゆる復興の最中でした。全ての国民が輝く未来を夢見た年でもありました。そして新幹線、モノレールが登場し、高速道路、日本武道館も完成しました。「1964東京五輪」は文字通り新生日本の幕開けとなり、日本が世界に向け大きく飛躍する転機ともなりました。

オリンピック第一のコンセプトは「世界平和」。そしてシンボルは「五輪旗」と「聖火」です。ギリシャ・オリンピアで太陽光から採火された聖火は中近東、アジアを経て日本に運ぶルートでした。五輪関係者の特段の配慮で、日本の第一到着地が沖縄と決定されました。当時の本土紙には「日本の表玄関・那覇空港に聖火到着」などと大見出しの文字が躍っていました。沖縄が本土復帰する8年前の出来事です。大戦で唯一の地上戦を体験した沖縄での聖火リレーは、まさに平和を希求する「命の叫びの炎」であり、その意義はとりわけ大きかったと回想しています。

当時、私は大学4年生。青天の霹靂でした。私が那覇空港で聖火を迎え、国内第一走者に、という栄誉にあずかりました。まさに身に余る光栄で、願ってもない人生の転機ともなりました。感謝の気持ちは年月を経て、歳を重ねるにつれますます大きくなり、胸の奥で燃え続けています。

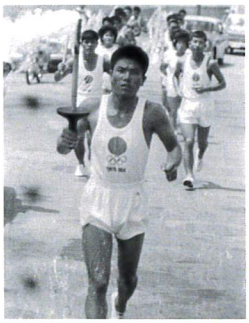


この幸運は靖国神社に眠る父、保吉の導きの賜物だったと強く実感しました。

9月7日、沖縄に到着した聖火は、当初の予想をはるかに超える人の波、日の丸の波、国内外の取材陣の波の中でスタートし、ほぼ全島を縦断する形で無事終わりました。

「聖火万歳」を三唱する光景も随所で見られ、糸満市のコースでは、遺影を胸に聖火を迎える姿も見られました。

沖縄でのリレーを終え、那覇空港から



空輸された聖火はその後全国を巡り、10月10日最終ランナー坂井義則さんの手で、国立競技場聖火台に点火されました。全国の走者、十万七百十三人。「東京五輪聖火リレー」集大成の瞬間でもありました。

２０２０年、国内聖火リレー出発地は、震災復興を祈念して福島県からスタートすることが決定しています。日本ならではの、侍ジャパンの国にふさわしい聖火リレー・祭典競技で世界各国のアスリート、観客を迎えてほしいと願っています。

新入会員（　）内は英霊との続柄

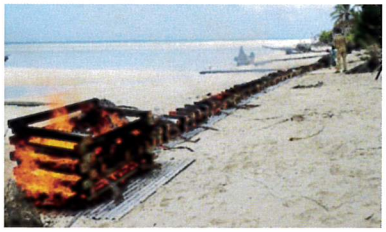
山梨県　吉原太郎様　（孫）
鹿児島県　上森聖紀様　（子）
ご入会ありがとうございました。

ウオッゼ島遺骨収容　鈴木千春

現地の新聞に紹介されました。概要です。

日本兵48名の遺骨がウオッゼを出発

３月５日、第二次世界大戦で戦没した日本兵48名の遺骨が、マジュロから日本へ出発した。遺族は、長年にわたり遺骨が日本に戻ることを望み続けている。約２万人の日本兵がマーシャルで命を落とした。いまだに１万６千名が日本に未帰還である。日本戦没者遺骨収集推進協会は遺骨を日本へ帰還させることを目指している。日本からの派遣団が２月22日マジュロに到着。メンバーは団長・日本戦没者遺骨収集推進協会竹之下氏、同会の平野氏、元陸上自衛官・小野氏、遺骨鑑定のトップスペシャリスト・楢崎教授、厚労省・星川氏、ウオッゼで父を亡くした遺族の岡村氏、ウオッゼで大叔父を亡くした鈴木氏である。２月24日派遣団はウオッゼに出発し、８日間滞在し遺骨を収容した。ウオッゼの最終日３月３日、焼骨を行い、ウオッゼ出身の市長のオタ・キシノ氏と追悼式を行った。マジュロに戻り、３月４日、平和公園で式典を行った。式典には日本側は特命全権大使の斎藤氏、マーシャル側は文化内務省のアメンタ・マシュー大臣が参列した。３月５日、48名の兵士の遺骨は75年後に、ついに日本へ帰還することができた。しかしマーシャルには未発見の遺骨が多数眠っている。ウオッゼでは２９００名の兵士が亡くなっており、そのうち２７００名が未帰還だった。今回の帰還後、２６５０名の遺骨が発見されていない。近く、次期派遣団が検討されている。日本軍兵士の遺骨に関する情報をお持ちの方は、警察、ＨＰＯ歴史保存局、オタ・キシノ市長、または日本大使館へご連絡ください。



48柱の焼骨

The Marshall Islands Journal – Friday, March 15, 2019　9

WWII 48 JAPANESE SOLDIERS' REMAINS DEPARTED FROM WOTJE

On March 5th, 2019, Forty-eight 48th World War II Japanese soldiers' remains successfully departed from Majuro to Japan. Over the years, the surviving families of the Japanese war casualties who died overseas in the war are so hopeful as ever that the remains of their loved ones will one day be returned to their homeland. Approximately, 20,000 Japanese servicemen lost their lives in the Republic of the Marshall Islands during World War II (WWII). The remains of around 16,000 of those are yet to be repatriated to Japan. Japan Association of Recovery and Repatriation of War Casualties (JARRWC), under the initiative of the Marshall Government and the Japanese Government, aim to repatriate the unfound remains of Japanese war casualties. The special delegation of JARRWC, who arrived in Majuro on February 22nd are listed in the following:

(1) Mr. Takenashita/ Vice-President of the JARRWC & Leader of the delegation. (2) Former Colonel Onoi/ A Top Specialist for unexplored bomb disposal. (3) Professor Dr. Narasaki/ A Top Archaeologist with medical knowledge who deals with Forensic and Diagnosis of the Remains/ He is a famous scholar in this field as International wide. (4) Mr. Hoshikawa/ A Specialist who is also the Deputy-Director of Ministry of Health, Labor and Welfare. (5) Mr. Hosoe/ A Specialist. JARRWC. (6) Mr. Okamura/ A Bereaved Family (His father died at Wotje during WWII), and (7) Ms. Suzuki/ A Journalist/ A Bereaved Family (her grandaunt died at Wotje)

The team departed to Wotje on February 24th and stayed about 8 days. Final day, on March 3rd 2019 at Wotje Atoll, The delegation held a memorial ceremony with Hon. Mayor Ota Kisino, Wotje and Community at the Japan side after the screening of the remains and cremation before their departure to Majuro same day by special flight.

In the afternoon of Monday, March 4th 2019, They held a memorial service at Peace Park. The ceremony was attended by representatives from Japan and the RMI: From the Japan side: H.E. Ambassador Norio Saito, Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary of Japan to the Republic of the Marshall Islands as well as the team of JARRWC. From the RMI side, the ceremony was witnessed by Honorable Minister Amenta Matthew, Minister of the Culture and Internal Affairs.

Then on March 5th, all remains of 48 soldiers could finally return to Japan after three-quarter century. However, the Marshall Islands have a lot of remains to be found. It was reported that during WWII, 2,910 soldiers died at Wotje and before this trip, there were 2,700 remains. Currently after this trip, 2,650 remains are still yet to be found in Wotje. The team is considering to send next delegation to Wotje in the near future. However, when you find some information regarding the Japanese soldier remains/ please inform Police Station, HPO, Especially, in Wotje Atoll, Hon. Wotje Mayor Ota Kisino or the Embassy of Japan

Hon. Minister Amenta Matthew Minister Culture & Internal Affairs

H.E. Ambassador Norio Saito Ambassador of Japan

第56回　マーシャル方面遺族会慰霊祭　平成31年４月７日　於　靖国神社